

木と土と水と火と

やさしくやわらかくとおしく
土の芳香に指先をゆだねながら
時の旅へと出で発とう
私たちが風の民であったころに
木と土と水と火の場所へ

歴史の襞の中から浮かび上がる
生命の証し

大樹の葉脈に刻まれた
大地の鼓動

清冽な水が導く
水遠の水路

そして一片の土器が語る
太古の風

一本の大木を切り倒し
繰り返し土と水をこね
野の涯までも
天空の涯までも
築き上げようとした祈りの塔

野に火はほうほうと燃えさかり
原始の祈りを舐めつくすように
畏怖のすべてを抱きかかえ

人々は松明を手にとり
ただ我らの祈りを届けよと
祝祭の火を放ったのだろうか

伝説の中の未完の塔のように
築いては、また築き
私たちはなんと長い時の旅をしてきたことが
やさしくやわらかくとおしく
耳をすまして再びの旅へ出で発とう
木と土と水と火と
宇宙(その)が宇宙(その)であった記憶をもって
ただ原始の祈りの塔を築くために

藤田 昭子 ふじたあきこ

1957年 横浜国立大学学芸部卒業
1973 アトリエ・陶芸舎を設立
1982 4年間のブラジル滞在 アトリエを設立
1985 カンピーナス大学美術学部
造形教育学科(陶芸)教授
1998 女子美術大学大学院教授
1999 七ヶ浜の藤田昭子美術館 開館(宮城)

作品:「なゆたの船」/野外彫刻

